

令和3年度 北海道旭川盲学校 第2回学校評議員会記録

1 日時 令和3年12月9日(木) 10:00~11:00

2 場所 北海道旭川盲学校 フレンドルーム

3 日程及び内容

10:00 校長挨拶

日程説明・出席者紹介

10:10 説明1:令和3年度2学期までの学校経営について(校長)

10:20 説明2:令和3年度2学期までの教育活動について(教頭)

10:45 質疑応答・協議

11:00 校長挨拶

4 学校評議員ご出席者

宮崎 伸一様	旭川点字図書館長
黒木 由香里様	北海道旭川盲学校PTA会長
加藤 弘様	旭川盲人福祉協会副会長
宮本 昌恵様	北海道立子ども総合療育センター副院長 ※ご都合により欠席
渡辺 典子様	旭川児童相談所長 ※ご公務により欠席

5 学校職員出席者

宮岸 尚平	校長
秋山 卓也	教頭
藤川 直子	事務長

6 記録

(1) 説明

説明1:令和3年度2学期までの学校経営について(校長)

校長:資料「学校経営の充実に向けて」に沿って、2学期までの学校経営の達成状況や今後の課題などについて説明。

説明2:令和3年度2学期までの教育活動について(教頭)

教頭:2学期までの教育活動の様子について、スライド(写真)をもとに幼小学部、中学部、寄宿舎での各行事や取り組み、交流学习等について説明。

(2) 質疑応答・協議:学校評議員よりご意見・感想等

旭川盲人福祉協会副会長 加藤 弘様

- ICT機器等を活用することにより、昔では考えられないような遠隔地との交流活動を行うことができ、大変恵まれていると感じた。
- オンラインだけではなく、機会を見てハイブリッドでの取り組みなど、一部でも良いので直接会う機会を確保できることが望ましい。
- 旭川ではいじめの問題が大きく取り扱われているが、本校ではそのような状況にならないような

取り組みとしてどのようなことを行っているか。

→年2回のアンケートを実施して状況の把握を行うとともに、集会活動での思いやり宣言（昨年まではいじめゼロ宣言）の取り組みを通じて、子ども同士が思いやりを持って他者と関わる気持ちを育てる活動を行っている。またスクールカウンセラーを年3回招聘して子どもたちと直接面談していただく取り組みも行っている。

旭川点字図書館長 宮崎 伸一 様

- ・点字図書館には盲学校の卒業生が多く訪れるが、昔は大変厳しく指導されたことを話している。今の子どもたちは優しくされていて良いといったお話もされている。
- ・本校の校区である道北地区は広大であることから、盲学校がメディアなどに取り上げられることが少ない。そのため、視覚障害に関する活動や学校のカリキュラムなどが市町村の福祉の窓口などにも知られていないのではないと思う。そのような窓口でも盲学校において、どのような教育が行われているか説明してもらえないと相談に来た人たちには納得してもらえないであろう。視覚障がい領域の免許を取得するといった専門性の向上を行うことがとても大切であると感じる。
- ・寄宿舍などの集団生活においては、感染症の対策が大変であろうと思われる。今後も安心安全な学校であってほしい。

北海道旭川盲学校 PTA 会長 黒木 由香里 様

- ・ときどきウオークの活動については、我が子は大変楽しんで参加している。様々な体験ができるので良い活動であると思う。
- ・なかなか他校の生徒と直接会うことが難しい状況であるため、オンラインでの様々な交流を行い、同じ年代の友達と話ができることが重要と考える。今後も継続してほしい。
- ・また、オンラインで札幌の学校などと結び保護者も研修ができる状況になっていることは大変良いことだと思っている。
- ・教員の専門性については、保護者から尋ねると知らせてもらえるが、なかなか教員側からの発信がないように感じられる。たくさん発信していただきたい。

(4) 校長挨拶

- ・各評議員の方への謝辞
- ・今回までは感染症対策もあり、授業見学などを日程に組み込むことができなかったが、今後の感染状況を見極めて、第3回では実際に授業を観ていただく活動を行えるよう準備したい。